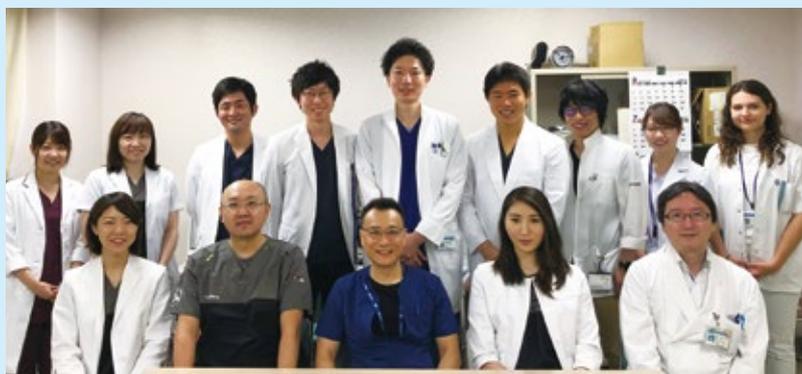


# 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



前列中央 市岡 滋 先生

# No.9

2020.7.1

## ごあいさつ

院長補佐 市岡 滋

皆様におかれましては、この100年に一度も遭遇しないような世界的災禍をいかがお過ごしでしょうか。

当院では埼玉県の感染症指定医療機関（一種2床、二種4床）として、2020年3月10日に最初の新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れました。とくに流行蔓延期に入って緊急事態宣言が出された4月7日以降は、一般患者さんと交差のない感染症病棟を開設し診療にあたってきました。これまで延べ約50名の患者さんを受け入れましたが、幸いなことに院内感染は一例も発生していません。社会の要請に応え、地域の中核病院としての社会的使命を果たしてきたとスタッフ一同自負しております。

今後予想されている再流行に配慮して、十分な感染対策を継続しながら診療します。手術や侵襲的検査においては必要に応じてPCR検査を行い、決して院内感染を起こさないよう最大限の努力を続ける所存です。

連携施設の皆様におかれましては、安心して患者さんを紹介していただきたいと思います。また患者さんにも同様にお伝えいただけると幸いです。

これからも地域の中核病院として、その役割を果たして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

## Contents

最近の知見	2
リプロダクションセンターから	
診療科の紹介	3
眼科	
泌尿器科	
新任医師のご紹介	4
小児外科	
形成外科・美容外科	
神経精神科・心療内科	
健康管理センター	
病院長からのエール	
地域連携小児夜間・休日診療システムについて	6
看護部から	7
地域医療連携室から	7
カルナ（インターネット予約システム）のご利用	8
提携医療機関から	
水村病院	8
飯能産婦人科医院	9

## リプロダクションセンターのご案内

こどもを持ちたいと考えるカップルの10～15%が不妊で、最近はその年齢が上昇していることから、さらにこの比率は上昇してくるものと思われます。1978年に世界で初めて体外受精（IVF-ET）による妊娠・出産が報告されて以来、生殖補助医療（ART）は発展普及し、現在では難治性不妊治療の中心的な役割を果たしています。我が国でも1983年に東北大学からIVF-ETによる出産例が報告され、2017年には日本で誕生した約94万人の子供の約16人に1人がARTで出生しています。また世界の統計によると、日本はARTの治療周期が最も多く、近年の晩婚化の影響もあり、諸外国と比較して40歳以上の女性の治療周期が多い特殊な状況となっています。

これまで、挙児希望のあるカップルの診療は本館4階の産婦人科外来のブースを使い、不妊外来として毎週月曜日と木曜日に診療を行ってきました。しかし不妊症患者さんと産科の患者さんを完全に分離するようにとの投書もあり、私達も心理的な外傷、長期的に悩まれている挙児希望のあるカップルに対して配慮をしたいと思います。本年4月から産婦人科外来から分離・独立し、東館2階でリプロダクションセンターを開設し、日曜祭日を除いた毎日、診療することになりました。当リプロダクションセンターでは、日本生殖医学会生殖専門医6名が診療にあたり、さらに近日中には月一回男性不妊の専門医をお招きして男性不妊に関しても診療を開始する予定です。また、毎週火曜日の午後には子宮鏡外来として子宮内膜ポリープ、子宮内膜炎などの評価と治療を行う外来も開設する予定となっております。

リプロダクションセンターでは一般の不妊治療からARTなどの高度医療さらには子宮鏡手術や腹腔鏡手術などの外科的な治療に至るまで幅広く対応し、患者カップルのさまざまなニーズに沿った治療を行ってまいります。

リプロダクションセンター（東館2階）

梶原 健（産科婦人科 教授）

石原 理（産科婦人科 診療部長）

☎：049-276-1774

### 開業の先生方へ医療連携のメッセージ

リプロダクションセンターでは挙児希望のあるカップルの検査・治療を産科診療が行われる場所とは異なる東館2階で行います。一般不妊治療では妊娠が成立しない、特に35歳以上の女性の場合は、35歳以降に妊孕性が急激に低下いたしますので早めにご紹介をお願いします。また、外科的な治療が必要な不妊症の患者さんにも対応しておりますので、何卒宜しくお願いします。



右から2人目 梶原 健先生、  
右から5人目 石原 理先生

● **眼科** 教授 篠田 啓 (シノダ ケイ) / 准教授 蒔田 潤 (マキタ ジュン)

近年白内障手術においてより高い見え方の質が要求されています。多焦点、乱視矯正、短波長域の光遮断、後発白内障予防、などの特性を有する眼内レンズを揃え、また偏位や落下症例にも適切に対応しています。

緑内障では低侵襲手術 (minimally invasive glaucoma surgery: MIGS) から治療効果の高い Ahmed implant など、短時間で行える術式から長期効果の期待できる術式まで症例ごとに適した治療を行っています。

角膜パーツ移植や涙道疾患の治療も石川聖先生を中心に充実し手術件数も増加しています。

眼科専用のアイセンター手術室を稼働しており、

網膜硝子体手術や外傷などの緊急手術にも迅速で柔軟な対応が可能です。診断学の進歩によって複雑な病態別の対応が必要となった加齢黄斑変性、黄斑浮腫などに対してもカンファレンスを行い常に治療方針を update しています。

神経眼科、小児眼科、斜視弱視、眼科腫瘍、特殊コンタクトレンズといった専門外来も充実し、さらに昨年蒔田潤先生の参加により、視機能改善の余地のない方が少しでも暮らしやすくなる手助けのケアを考える「ロービジョン外来」を開設し、手術とは異なるアプローチも含めて多くの患者さんのニーズに対応しています。



**診療部長のご挨拶**

アイセンターでは診療に関わる 8 種の職種が集まり、複数の視点から個々の患者さんのケアから診療全体の課題までを取り上げてよりよい診療を目指した会議を毎月行い診療の質の向上に努めています。

また地域の先生、他科の先生との交流機会を大切にして、顔の見える連携医療を推進していますので引き続きよろしくお願ひします。

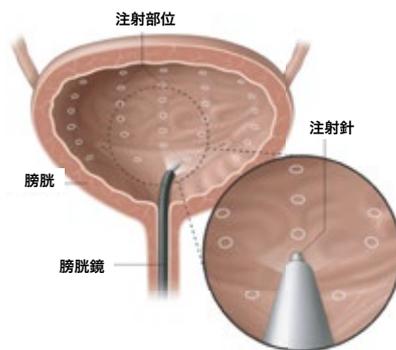
眼科 篠田 啓 / 蒔田 潤  
外来 ☎ : 049-276-1295

**診療科のご紹介**

● **泌尿器科** 教授 朝倉 博孝 (アサクラ ヒロタカ) / 准教授 篠島 利明 (シノジマ トシアキ)

過活動膀胱 (急におしっこがしたくなり、場合によっては、もれてしまう病気) が、再び脚光を浴び、マスコミでは、「膀胱が硬くなる病気」などと報道されております。そして、通常の治療では改善できない過活動膀胱を、「難治性過活動膀胱」といいます。難治性過活動膀胱に対して、主に、2つの治療法、i) **磁気療法** (女性限定。30分だけ椅子に座る治療) と ii) **仙骨電気刺激療法** (手術により仙骨部に電極を埋め込む方法) があります。そして、3つ目の治療法として、**ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法** (膀胱壁にボツリヌス毒素を数十ヶ所注射する方法) がこの4月から保険適応となりました。ボツリヌス毒素療法は、痙性斜頸、顔面けいれんなどの疾患には、既に保険適応となっており、自費診療では、「目じりの表情しわのばし」として美容外科で使用されています。ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法は、侵襲から考えると前述の2つの方法の真ん中に位置する治療法です。比較的侵襲度が低く、速効性があ

る点で優れておりますが、有効期間が数か月間 (3~8か月) であり、頻度は少ないものの尿閉 (おしっこがでなくなる) を起こすマイナスの面もあります。しかし、新しい治療として、期待されており各種ガイドラインでもグレードAとして推奨されております (ポットクスの治療図)。本院では、難治性過活動膀胱に対しても尿流動態検査を施行して、正確に病態を把握し、この治療法も最大限に有効に働くように努力しております。



膀胱鏡下に、膀胱内に20~30カ所、膀胱壁にボツリヌス毒素を注射する。

**診療部長のご挨拶**

皆様、こんにちは診療部長の朝倉博孝です。大学病院泌尿器科では、前立腺肥大症・尿失禁などの排尿障害、尿路結石、重症尿路感染症、そして、国際医療センターとの連携のもとに悪性腫瘍に対しても、質の高い医療を提供しております。昨年より、腹腔鏡手術認定医師が2名になり、侵襲性の低い充実した手術を、癌の手術を含めて多数施行できるようになりました。また、排尿障害については、数年前より、看護師・薬剤師・理学療法士・泌尿器科医の多職種連携チーム「排尿ケアチーム」が結成され、総合的に判断し良質の対応をしておりました。従来は、入院患者限定の対応でありましたが、退院後も同様に看護・治療できるように、外来診療において保険適応となりました (排尿ケアチーム写真)。さらなる充実した専門性の高い診断、治療を提供できると思います。是非とも、泌尿器科を受診していただけますようお願いいたします。



泌尿器科 朝倉 博孝 / 篠島 利明  
外来 ☎ : 049-276-1290

● **小児外科 教授 田中 裕次郎 (タナカ ユウジロウ)**

2020年1月1日付で埼玉医科大学小児外科教授を拝命いたしました。

私は1997年に東京大学を卒業後、研修医を終えてから、国保旭中央病院で一般外科の研修を2年半受けました。そこでは多くの手術を執刀させて頂き、胃切除術だけでも50例以上執刀させて頂きました。その後、東京大学小児外科に入局し、東京大学、日本赤十字医療センターで小児外科医としての修練を始め、大学院修了後に現在自分が専門とする小児内視鏡外科手術を東京大学の当時の岩中督教授のもとで本格的に学び始めました。続いて日本有数のハイボリュームセンターである埼玉県立小児医療センターおよび名古屋大学において約10年間にわたって多くの高難度の小児内視鏡外科手術の経験を積んできました。また、小児で最も多い鼠径ヘルニアの手術に関しては1000例以上の単孔式腹腔鏡手術を行ってきました。

高難度の小児外科手術をきちんとできる施設は全国でも限られています。埼玉医科大学が皆様に信頼される病院であり続けられるように小児外科チーム

を構築し、常に世界のトップレベルの治療を続けて、より低侵襲で効果的な治療を追い求めていきたいと思っております。どうぞご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



**新任医師のご紹介**

● **形成外科・美容外科 教授 時岡 一幸 (トキオカ カズユキ)**

2020年4月1日付で埼玉医科大学形成外科・美容外科教授を拝命いたしました。

形成外科の診療分野は外傷、先天性疾患、皮膚・軟部組織の腫瘍、難治性潰瘍、美容外科など、多岐に及びます。加えて、病気そのものを治療するだけでなく、形態と機能の回復をはかり、Quality of Lifeの向上を目標としています。

私は東京医科歯科大学を卒業後、1990年代の大半を静岡県立こども病院で過ごしました。これがきっかけとなり、現在に至るまで口唇口蓋裂、多指症・合指症、臍ヘルニアなどの先天性疾患を主に担当しています。

中でも、口唇口蓋裂は外見だけでなく、発音や咬み合わせなど機能的な障害も伴います。そのため、私が本学へ赴任してからは、大学の内外を問わず歯科、耳鼻咽喉科、言語聴覚士などの専門職とともにチーム医療体制の構築に努めてきました。また、近年では地域の産婦人科より紹介された妊婦さんには出生前のカウンセリングを積極的に行っています。

今後も多彩な診療分野を持つ形成外科の一翼を

担っていく所存でおりますので、よろしくお願いいたします。



● **神経精神科・心療内科 教授 横山 富士男 (ヨコヤマ フジオ)**

2020年4月1日付で埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科教授を拝命致しました。私は川越市出身で、1982年に福島県立医科大学を卒業しました。母校の精神医学教室に入局し、児童思春期精神医学を専門にしてきました。1988年から埼玉医科大学神経精神科・心療内科に入局させていただき、本学でも入局当初から児童思春期外来を担当しています。

2006年からは埼玉医科大学かわごえクリニックの「こどものこころクリニック」でも診療をしています。来院される患者さんは自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害、緘黙症、摂食障害、不登校、ひきこもり、児童思春期の精神疾患（うつ病、統合失調症）など多岐にわたります。診療には心理士、言語聴覚士などの他職種との協働も必要になりますが、子どもを取り巻く教育関係の方々との連携も大切で、私は地域の小・中学校児童・生徒就学支援委員や特別支援教育専門家チーム委員

長をしている関係上、学校医の先生方にもお世話になっていると思います。今後も地域の児童思春期精神医学の啓蒙にも努力していくとともに、この領域に関心のある若い医師たちを育てていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



**新任医師のご紹介**

● **健康管理センター 教授 (センター長) 足立 雅樹 (アダチ マサキ)**

2020年4月1日付で健康管理センター教授を拝命いたしました足立雅樹と申します。1997年丸木記念館にてオープンいたしました健康管理センターも23年が経ちました、開設から予防医学の発展には大学での健診・人間ドックの質的向上が大切と思い精進してまいりました。専門分野は放射線医学の中でも画像診断でMRI・CT以外にも超音波診断や単純写真分野です。埼玉医科大学内の職員・学生など皆様の胸部写真をダブルチェックにて拝見させていただいております。予防医学におけるAI (artificial intelligence) の活用には画像上では胸部単純における骨抜き画像・引き算画像・CAD(Computer-aided diagnosis)も新しい取り組みとして活用を始めております。予防医学における人間ドックは日本が世界にアピールできるものであり、大学教育でも予防医学の重要性を若い予防医学者の育成を通じて確立させていきたいと思いま

す。運営責任者の織田弘美病院長からのご推薦にて教授としてセンターをまとめて参ります。4月はじめての仕事は新型コロナ（COVID19）流行のため健康管理センターの人間ドック中止の決断でありましたが頑張っ参りたいと思います。



● **新任医師へ病院長からのエール**

2020年1月1日付で小児外科教授として着任された田中裕次郎先生は、小児内視鏡手術のエキスパートで、難易度の高い先天性胆道閉鎖症の腹腔鏡下手術ができる数少ない小児外科医の一人であると聞いています。手術技術のレベル向上に貢献して下さるものと期待しています。

4月1日付で形成外科・美容外科教授に就任された時岡一幸先生は、主に先天性疾患を担当し、特に口唇口蓋裂では他科の医師や言語聴覚士を含めた診療チームを構築して治療に当たってきました。これを機に、小児形成外科診療がさらに発展することを期待します。

4月1日付で神経精神科・心療内科教授に就任された横山富士男先生は、最近増加している児童思春期精神疾患の専門家で、当院とかわごえクリニックで多くの患者さんを診療してこられました。これを機に後進の指導にも力を注いで頂けるものと期待しております。

同じく4月1日付で健康管理センター教授に就任された足立雅樹先生は、開設時から専門の画像診断のみならず職員全員のチームワーク造りに尽力し、質の高い健診・人間ドック施設を築いてこられました。今後は新型コロナ対応の体制を構築して頂けるものと期待しております。

## ● 地域連携小児夜間・休日診療システムについて



小児科の外来医長をしております、石井と申します。

今回は小児科にて行っています、地域連携小児夜間・休日診療システムについて、ご

紹介させていただきます。

もともと埼玉県西部地域の小児夜間救急医療体制は脆弱で、一次救急診療を提供している地域も少なく、埼玉医科大学病院の救急外来で一次から三次までの医療を担ってきました。

2008年にこの状態の改善案として、検討を重ねた結果、夜間・休日の一次診療システムとして大学病院において地域の医師に診療のご協力をいただくという、現在の地域連携システムがスタート致しました。具体的には、準夜帯の4時間と休日日勤帯の4時間に当院の救急センター・中毒センター（EC/PC）においていただき、外来診療をお手伝いいただくというものです（救急車で来院、紹介患者、入院となった児は小児科当直医が担当）。当時このシステムを実現させるために、埼玉県坂戸保健所、飯能地区医師会、坂戸鶴ヶ島医師会との協議を重ね、多くの先生方に協力医の登録をして頂き稼働させることが出来ました。お陰さまでこのシステムは現在までの12年間継続しております。しかし、昨今の医療事情は開設当初とは変化してきており、登録医師は減少傾向にあります。（図参照）この厳しい医療状況においては致し方ないとも考えておりますが、今回再度このシステムを紹介させて頂く事で、登録医師の裾野を広げる機会になることを期待しております。小児の夜間・休日診療の継続は容易

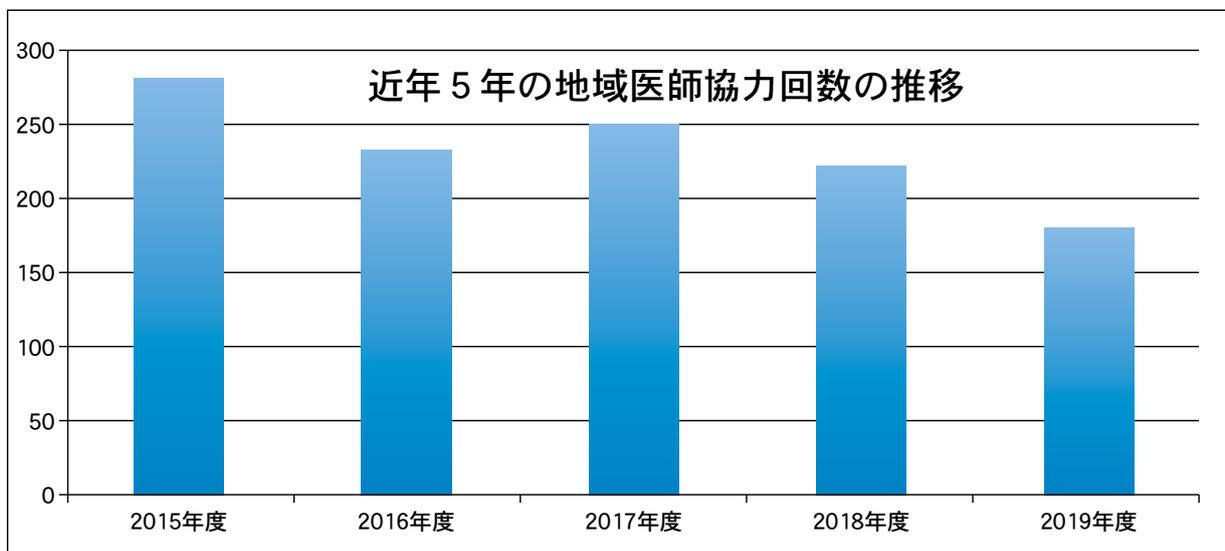
ではありませんが、小児医療への貢献のため地域の先生方のご協力は必要不可欠です。地域連携システムにご興味を持たれた先生がおられましたら、ご連絡頂ければ幸いです。

最後になりますが、今回紹介の機会を頂きありがとうございます。また、現在までこのシステムが継続しておりますのは、地域の先生方のご協力の賜と感謝しております。これからも宜しくお願い致します。



お問い合わせ先

小児科医局 ☎ : 049-276-1218



## ● 看護部から

埼玉医科大学病院新生児集中治療室（NICU）では、在胎 25 週以上、体重 500g 以上の早産や疾病を持つ赤ちゃんが入院し平均 2000g 程度の成長を目途に退院しています。退院後はこどもセンターに引き継ぎ、赤ちゃんのケアに精通した新生児集中ケア認定看護師が赤ちゃんのご両親のお世話をしています。

入院中の赤ちゃんには、安楽な姿勢をとり、ミルクの量や回数を工夫して腹部膨満を回避し肺を広げやすくして呼吸を助けるなど、未熟な全身の機能が上手くいく様にケアしています。また、ストレスとなる過剰な光や音、痛み刺激の回避に努め、温度・湿度を調節するなど、赤ちゃんにとって心地よい環境を提供し、安静や睡眠を保ち、成長発達を促進しています。

ご両親には、赤ちゃんの病状を理解し、治療中でおもむつ交換や授乳などのお世話ができ、親子の関係を深め、親としての役割が果たせる様に環境を整えています。退院後には、不安なく赤ちゃんとの生活ができる様、育児技術の他に人工呼吸器管理など必要となる技術を身に付けていただけるような関わ

りを行っています。

その他ケアの質の維持・向上のために、医師とともに、日本版救急蘇生法ガイドラインに基づく新生児蘇生法（NCPR）の専門コースを開催しています。講習会には医師、助産師、看護師だけでなく、消防隊の方も受講されています。受講を希望される方は、一般社団法人日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法普及事業のホームページをご参照ください。

新生児集中ケア認定看護師



## 地域医療連携室から

### 医療機関の皆様へ

地域医療連携室では、医療推進、機能分化に伴う集約的な窓口として、医療機関からのカルナ（インターネット予約システム）や FAX 紹介による診療予約受付、外来担当医表の発送、などを行っています。

紹介元の先生方からの**患者紹介に関する問い合わせ（受診相談、転院相談等）**については、**直接該当科外来**へお電話をお願い致します。

連携医療機関からの各種問合せに関して迅速に対応させていただいております。また、紹介医療機関への報告書（お返事）が滞ることのないように、病院連携システムにて管理しております。未報告に関しては外来と連携をとり対応させていただきます。

### 患者さんをご紹介頂くにあたって

当院では地域の医療機関と、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ることを目的として提携医療機関・登録医制度を設けています。登録頂きカルナ（インターネット予約システム）をご利用頂きますとインターネットで診療及び検査の予約が行えます。

### 診療連携シンフォニーについて

埼玉医科大学病院は地域の先生方との顔の見えるきめ細かい情報交換を行い、さらに地域との連携を深めてまいりたいと考えています。

紹介していただいた地域の先生方に、患者さんのその後の経過を主に診療科の特色等も交えながら 2012 年から毎年 2 回開催している報告会です。

地域医療連携室 049-276-1876

# カルナ（インターネット予約システム）の利用

## 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

## 提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

### 1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

提携医療機関・登録医 申請届

令和 年 月 日

埼玉医科大学病院

病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム（提携医療機関・登録医制度）の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1 医療機関1名（理事長・院長・所長等を明記）

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX 番号

カルナ希望 あり なし（どちらかに○をつけてください）

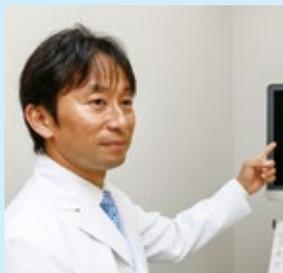
## 提携医療機関から

### 水村医院

当院は、1975年に日高市原宿で開業し、地域に根ざした医院を目指し、職員一同努力を続けてまいりました。生活習慣病などの日常的な疾患に加え、専門である呼吸器疾患、アレルギー疾患、睡眠時無呼吸症候群で皆様の助けになれるよう努めています。

埼玉医科大学カルナシステムは、診療所で行えないCT、MRI、核医学検査などをインターネット経由で院内検査のように簡単に予約ができ、開業医の強い味方と感謝しております。読影結果も添付いただき、専門外の検査も、安心してお願いすることができています。

院長：水村 賢司



### 医療機関情報

診療科目：内科・呼吸器内科・アレルギー科

診療時間：午前 9:00～午後 0:00

午後 3:00～午後 5:30

土曜日は午前のみ

休診日：水曜日・土曜日午後・日曜日・祝日

ホームページ：https://mizumura-hp.com



### 2-1. 患者紹介（外来診療予約）について

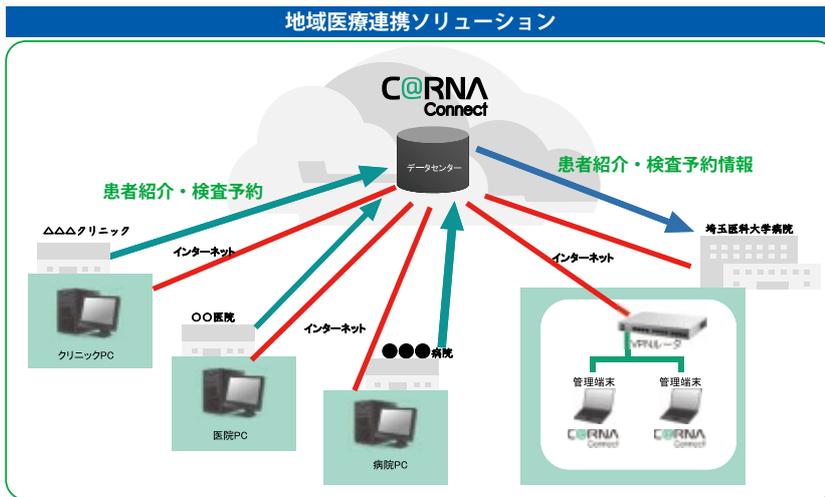
- ① カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ② 患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

### 2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。（7月より「骨塩定量検査」を開始しました。）
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

### 2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



新規カルナ登録医療機関 (R1.12 ~ R2.5)			
東青梅診療所	東京都青梅市	院長	武信 康弘
樺澤内科医院	東松山市	院長	樺澤 健太郎
瀬川病院	小川町	理事長・院長	瀬川 豊

## 飯能産婦人科医院

当院は、国道 299 号に面しており飯能警察の前にあります。

分娩、帝王切開、無痛分娩、婦人科等を行っています。

院長は院内に居住している為、24 時間対応しています。

未熟児が生まれそうな切迫早産妊婦、高度合併症妊婦、胎児異常疑いの妊婦、腫瘍がある婦人を埼玉医大に紹介させて頂いております。

カルナシステムでは、特に胎児診断が必要な方、妊娠糖尿病、双胎の方、子宮脱の方の紹介予約に利用しています。初診当日に特殊外来診察まで受けられる為、受診する回数が減り助かっております。

院長：武藤 伸二郎

### 医療機関情報

診療時間：午前 9:00 ~ 午後 0:00

午後 2:00 ~ 午後 5:00

休診日：土曜日午後、日曜日・祝日

ホームページ：<http://www.hannou-sanfujinka.com/>



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長  
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

## 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199  
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876  
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119  
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



## 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（9号）

発行：埼玉医科大学病院  
発行責任者：織田 弘美  
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会  
編集責任者：篠塚 望  
電話：049-276-1876 地域医療連携室  
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
発行日：2020年7月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。